

少年センターだより

「湖南市少年センター・あすくる湖南」

湖南市少年センターHPに
カラー版を掲載中
QRコードで簡単アクセス！



《所在地》 〒520-3195 湖南市石部中央一丁目1番1号

湖南市役所西庁舎 別棟2階

《悩み相談》 Tel 77-7053 Fax 77-7059

《e-mail》 ask-7053@city.shiga-konan.lg.jp



薬物の魔の手は すぐそばに...

湖南市少年センターでは、薬物乱用の防止に向けた啓発活動を日々行っています。

最近では、テレビや新聞、インターネットなどで薬物に関する報道を目にする機会が増え、「もしかしたら、こうした問題が私たちのすぐそばにもあるのでは…」と感じることが多くなってきました。

薬物の乱用は、健康や命に関わるだけでなく、周囲の人との関係や将来にも大きな影響を及ぼします。特に若い世代にとっては、ちょっとした興味や軽い気持ちで、取り返しのつかない結果につながることもあります。

こうした現状を受けて、当センターでは強い危機感を持ちつつ、皆さんと一緒に考えていくために、今回、「麻薬・覚せい剤・大麻 乱用防止運動」に合わせた特集をお届けすることにしました。

薬物の問題を「遠い世界の話」ではなく、「身近な課題」として捉え、正しい知識と予防意識を広げていくことが、未来を守る第一歩です。

ぜひこの特集をとおして、薬物について改めて考えるきっかけにいただければ幸いです。

◆オーバードーズ（OD）

市販薬の過剰摂取が、若者を中心に深刻な社会問題となっています。

咳止め薬や鎮痛薬など、本来は症状を和らげるための医薬品が、感情の変化や自傷目的で乱用されるケースが急増して、学校や家庭、地域社会に大きな影響を及ぼしています。

厚生労働省の調査によると、高校生の約 60 人に 1 人が市販薬を乱用目的で使用した経験があるとしています。

OD による救急搬送は全国で増加傾向にあり、特に都市部では「トー横」「グリ下」など若者が集まる場所での乱用が目立っています。

◆薬物運搬の闇バイト

SNS で「即金バイト」「高収入」「荷物を運ぶだけ」という言葉を使って募集をしていることがあります。しかし、応募後、最初は「荷物の受け取りと配送」と説明されますが、実際には覚醒剤を含む違法薬物の運搬であったという事例があります。

やり口として、「一度だけ」「簡単」「絶対にバレない」といった言葉で心理的ハードルを下げてくる場合があります。また、最初はグレーな作業（荷物受け取り、口座提供など）から始まり、徐々に違法行為へと誘導してくるので注意が必要です。

簡単に始められるが、懲役刑が科される重大犯罪です。

「薬物乱用防止啓発標語」

薬物は 自分自身を こわしてく

寺村 清榎さん（令和6年度菩提寺小学校卒）

使わない ありのままの自分を 大切に

山岸 陽莉さん（令和6年度石部小学校卒）

◆ゾンビたばこ

主に電子タバコ用リキッドに混ぜて使用される危険ドラッグであり、有効成分はエトミデートです。本来は麻酔導入薬として使われる鎮静剤で、日本では未承認です。使用すると中枢神経が抑制され、泥酔状態・手足のけいれん・意識障害などを引き起こすとされています。使用者が「ゾンビのようにふらふら歩く」ことからこの俗称がついています。

日本国内でも、使用、所持で逮捕される事案が発生し、特に沖縄県の若者の間でひろがっています。

◆フェンタニル

フェンタニルは、医療現場で使用される強力な鎮痛薬です。がん性疼痛や手術時の麻酔補助など、命を守るために欠かせない薬剤として活用されています。しかし近年、この薬が「乱用薬物」として世界中で深刻な問題を引き起こしています。

今年、名古屋市で中国系企業がフェンタニルの前駆物質を米国へ不正輸出していた疑惑が報道され、国際的な密輸ルート的一端が明らかになり、国内への流入も懸念されています。

◆滋賀県の薬物事情

滋賀県でも、大麻事犯が急増しています。検挙人員の約7割が10代から20代の若年層とされています。また、約8割が大麻事犯の初犯者であり、大麻が若年層に急激に広がっているとされています。

その背景には、SNSなどで「大麻は安心」「依存性がない」といった誤情報が拡散されており、若者の間で心理的なハードルが低くなっているのではないかと指摘されています。

◆今後、大麻事犯を増加させないために

① 若年層への教育強化

現在、市内の小学校6年生、中学校2年生を対象に「薬物乱用防止教室」を実施しています。少年センターでも、啓発品を配布したり、啓発標語を募集したりしています。

② 家庭での見守り

薬物は隠語（スラング）が用いられます。次の言葉が家庭内で聞こえてきたら黄信号です。

(例) 大麻 … 草、葉っぱ、グリーン など
覚せい剤 … シャブ、アイス、スピード など
供給元・売人 … 八百屋 など

少年センターでは今後も薬物乱用防止の啓発活動を強化してまいります。困ったことがあれば、相談してください。関係機関と連携しながらお話を聞かせていただきます。

滋賀県の薬物乱用防止相談窓口

●滋賀県薬務課 077-528-3634
●滋賀県立精神保健福祉センター 077-567-5010

◎少年センターでは無職少年の就労・就学の相談・支援を実施しています。

中学校卒業後から20歳未満の少年で働きたい・学びたい。でも何をしたらよいのか分からない人の相談を受け付けています。センターに連絡ください。Tel 77-7053



子ども・若者育成支援推進強調週間

スローガン「たくましく 伸びよう 伸ばそう 湖国の子」

○11月は「滋賀県子ども・若者育成支援推進強調週間」です。

期間中に子ども・若者育成支援推進のための諸事業、諸活動を集中的に実施します。

少年センターでは青少年に関わる団体や機関などと連携しながら、巡回パトロールや啓発活動を展開します。

また、青少年を取り巻く有害環境浄化推進のため図書、DVD、ゲームソフト、有害玩具、刃物等の取り扱い販売店やカラオケ、ネットカフェ店の規制対象業に対して、一斉立ち入り調査を行います。ご協力をお願いします。

「薬物乱用防止啓発標語」

夢と希望 全てをこわす 薬物たち 池田 翔 さん(令和6年度石部小学校卒)

「少しでも」 その思いが ダメにする 布施 七海さん(令和6年度三雲東小学校卒)